



# ありあけ

佐賀大学農学部  
同窓会報  
No.17

発行日 2016年1月1日  
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会  
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700  
E-mail dousoukai@sadai.jp  
ホームページ <http://sadai.jp/alumni/>  
※E-mailアドレスとホームページアドレスが変わりました。

## 巻頭言



## 多様な人材の活躍に向けて

麒麟ビール株式会社 神戸工場 工場長 神崎夕紀  
(S61年卒・生化)

新年あけましておめでとうございます。

同窓会会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、農学部設置60周年という記念すべき年でした。本年は、更に佐賀大学農学部が地域とともに発展し、将来を担う若者の育成の場としてますます成長を加速させていく年です。卒業生としても大学の発展に大きく期待しております。このような中、学生の皆様、卒業生の皆様にむけての新年のご挨拶をさせていただく機会をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

私は、1982年に本学農学部農芸化学科に入学、その後農学研究科を経て、1988年に社会へ巣立ちました。当時、男女雇用機会均等法が施行されまだ数年ということもあり、理系分野での女性活躍の機会は十分とはいえませんでした。しかしながら、私自身が製造メーカーに勤務し、なんとか社会人として企業や社会において役割をいただけているのは、大学で学んだこと、単に、農芸化学や生化学の知識だけではなく、研究や課題に取り組む姿勢、学生時代に身に付けた物事に対する考え方や行動を自分の強みとできたことだと思っています。先日、“農学部、広がるフィールド「ノケジョ」志望が急増”という新聞記事を目にいたしました。現在、佐賀大学農学部にも多くの女子学生の皆様が学んでいらっしゃいます。その記事では、農学部を含む理系学部を選ぶ女子学生の方が多いことについて、“食品の安全性

や環境問題など身近な課題である、またそれらに鋭い感性を持っている等が、理由ではないか”と書かれていました。それでは、そのノケジョと呼ばれる皆様がどのように社会で活躍していくのでしょうか。私は、食品や環境も含めた幅広い分野で、多くの女性を含む多様な人材が自ら新たな活躍の場をつくっていく、そのような将来を思い浮かべています。是非、皆様にその担い手になっていただきたいと思っています。そのためには、それが実現できる自分になることが必要です。目の前にあることに真摯に取り組む、成長していくことこそが、自分の活躍の場をつくり、自ら輝くための最も早い道であると思うからです。学生の皆様、卒業生の皆様、皆様には様々な可能性があります。是非、佐賀大学農学部で一生懸命に学び経験したことを自分の誇り、自信として、未来の自分を切り拓いていただけることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



2010. 6. 1. キャリアデザイン講座にて

## 佐賀大学農学部と同窓会との意見交換会を開催

平成27年12月1日に菱の実会館において、「佐賀大学農学部と同窓会との意見交換会」を開催しました。主な内容は次のとおりです。

### 1. 同窓会の主な取組について【同窓会川副会長から】

本年は農学部創立60周年記念行事があり、共催という形で参加させていただきました。また、先日は「在学生と教職員・卒業生の交流会」を開催しましたが、アンケートでは「卒業生に若い人を」という意見があり、県庁支部と教職員支部からも参加して、全体で80名の参加がありました。学生のみなさんにはおおむね好評でしたので、来年も見直しをしながら続けたいと考えています。さらに、同窓生の輪を広げる目的で、組織強化にも取り組んでいます。ネットワークが広がることで、さらにいろいろな活動が進められると考えています。



### 2. 農学部の現状と今後の方向【農学部学部長渡邊様から】

今年、中期計画の2期が終了し、来年第3期目に入ります。大学が目指す「地域とともに未来へ発展しつづける大学」にそって、地域の中核機関として地域の発展に貢献する大学をめざしつつ、グローバルな人材育成を行うこととしています。このような目標のもと、組織の見直しを含めた計画を検討しているところです。

また、これからの教育のやり方として、学外の方に講師をお願いすることや、インターンシップを増

やすことを考えています。それには貴重なネットワークである同窓会に頼るところが大きくなってきます。具体的には卒業生で株式会社オプティムの社長である菅谷様に、プログラミング、起業・経営、知財管理、ビジネスモデルの構築などを内容とするインターフェイス科目をお願いするようことも進めています。このように、これからいろいろなかたちで同窓生に教育へかかわってもらいたいと考えています。

### 3. 各学科の現状等【各学科長から】

出席いただいた各学科長から、主に学科の運営状況と卒業生の進路について報告をいただきました。農学部の就職率は他学部にくらべても高いことや大学院へ進む学生が増えてきたこと、就職先としては、やはり企業が多いが、公務員へも多く進んでいることなどを詳しく報告いただきました。



### 4. 意見交換

意見交換では、同窓会からの提案として、佐賀県庁支部から「学部生・大学院生への公務員職場の紹介と勧誘の定期的な開催」について提案をしました。県庁支部としては、もっと多くの卒業生に佐賀県庁に入ってもらいたいので、公務員職場の魅力・やりがいなどを学生のみなさんたちに発信していきたいというものです。この提案には農学部の先生からも賛同の意見がでて、今後連携をとりながら具体的な取り組みについて検討していくことになりました。このほかにもいろいろな話題で意見交換を行い、有意義な会となりました。

重富 修（S59年卒・育種）

## 会費納入のお願い

日頃より、同窓会活動に多大なご理解を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

同窓会会報「ありあけ」の発行、総会・懇親会の開催、大学との意見交換会、支部助成活動、在学生への就職支援など、多岐に亘る活動をおこなっています。これらの事業は同窓会費で賄われており、同窓生の皆様には大変ご協力をいただいておりますが、近年は年会費納入率が極めて低く、同窓会運営にも支障を来しています。

出費多端のところ大変恐縮ではございますが、同窓会の趣旨をご理解の上、納入いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、既に納入をして頂いている方につきましては誠に申し訳なくご容赦の程お願い申し上げます。



## 在學生と教職員・卒業生の交流会を開催 ～在學生・大学と同窓会との絆を深めるために～

平成27年11月18日就職ガイダンス終了後、「かささぎホール」において「在學生と教職員・卒業生の交流会」を開催しました。今回の交流会は、昨年ひきつづき2回目の開催となりました。先立って行われた就職ガイダンスの講師（伊藤ハムウエスト長野様、山崎製パン宇土様・辻川様、JA佐賀川本様、コトブキ製紙石橋様・轟木様）に加え、今回は、佐賀県庁支部や教職員支部からも同窓会会員が参加するなど、在學生との絆をより深めるよい機会になりました。在學生からは、学部の3年生や大学院1年生約40名、教職員・卒業生からは約40名の参加をいただきました。

参加した在學生は、OB・OGや参加いただいた企業の人事担当の方を囲んで、体験談などに真剣なまなざしで耳を傾けていました。

昨年のアンケート調査の結果では、参加する卒業生の年齢層について、やはり「自分たちに近い年代」が多かったので、県庁支部、教職員支部から卒業後数年の若い同窓生に参加してもらいました。やはり年齢が近いことで、話もしやすかったようでした。

今年もアンケート調査を行い、「就職活動の悩みは？」という問いには「自分が何にむいているかわからない」に72%の方が、「情報が多すぎて自分に必要な情報が何かわからない」に41%の方が「該当する」としていました。また、「学業との両立が難しい」と



いう回答も多く見られました。今後の在學生支援活動の参考にしたと思います。

「在學生を支援する同窓会活動で知っているものは？」という問



いには、「卒業生への同窓会会長賞の授与」を34%の方が「知っている」と答えていただきましたが、他は少なく、まだまだ活動内容が知られていないと感じました。

交流会の最後に、県庁支部の成富様と山口様から在學生に対する熱いエールをおくっていただき、閉会となりました。

今回の交流会については、参加したほとんどの方から「有意義だった」と回答していただき、同窓会として、これからもこのような機会を積極的につくり、同窓会と在學生・大学との絆を一層深めていきたいと思えます。

重富 修（S59年卒・育種）



### 農業版MOT特別講演会

### ～「大地を耕し、人を耕す」～

佐賀大学大学院農学研究科  
農業版MOT特別講演会のご案内

**多様な連携・協働で  
次世代の地域農業を切り拓く**

今回は、生産者と消費者、農材と都市、市場と産地・人と「絆」を基本テーマに、今年度の農業・農村の活性化戦略について講演会を開催します。多くの方々のご来場をお待ちしております。

日時 7月31日(金) 13:00～16:50 **入場無料**

場所 佐賀大学農学部大講義室  
(佐賀県佐賀市本庄町1番地)

**第1部 多様な連携・協働と農業・農村の活性化** 13:15～15:20

**新開 玉子氏** 有限会社ぶどう畑 代表取締役  
農業物産売店ぶどう畑 店長  
「お宮さまと生産者とを結ぶ架け橋に～ふとう畑の取組～」

**新開 茂樹氏** (株)東農大産 日マーケティンググループ  
プロジェクティナー  
「流通の最前線～市場と産地と人をつなぐ～」

**第2部 農業版MOT修了生の新たな挑戦** 15:40～16:50

**成富 正司氏** 株式会社Plant Farm Japan  
代表取締役社長 (MOT第1期生)  
「水田大規模複合地産農経営の取組と新展開」

**船津 静哉氏** 社会福祉法人もりの会 (MOT第5期生)  
理事  
「農業と福祉の連携による障害者支援センターの設立と取組」

**梁 承賢氏** 福岡県農業青年会  
MOT2期生 野村農場で研修中  
「日本の農業調理学の心」

主催：佐賀大学大学院農学研究科、佐賀大学大学院農学研究科農業版MOT教育推進協議会  
問い合わせ先：農 部 長 0958-26-2123、研修 係 0958-26-2750

農業版MOT教育を開始して今年度で6年目、これまで社会人49名、大学院生23名が修了。新商品の開発・販売や農業経営の法人化による新ビジネスの展開など様々な成果が芽生えている。

今年度は、それらの実績を踏まえ修了生の取組成果報告を中心に「農業版MOT特別講演会」を7月31日に農学部大講義室で開催、農業者や農業関係機関・団体を中心に企業や異業種の方など約100人が参加し活発な意見交換が行われた。

まず同大学農学研究科の渡邊啓一研究科長が「農業を取り巻く環境が変動する中、若い世代が消費者目線で魅力ある農業を担うことが大切」と挨拶し、

次世代の地域農業に期待を寄せ、講演会がスタート。

第1部の基調講演では、「多様な連携・協働と農業・農村の活性化」をテーマに、福岡市南区の農産物直売店「ぶどう畑」代表取締役の新開玉子氏が「お客さまと生産者とを結ぶ架け橋に～ぶどう畑の取組～」



と題し、直売所を核とした活動について講演。地域での食農教育や農業塾、女性未来農業創造塾研究会などを通し農業者と消費者をつないでいる取組を報告、「人の心を耕すことがなにより大切、これからは女性の力を活かしながら、若い就農希望者や農業応援団を育て農業を次世代につなげたい」と熱い思いを語った。



また、「東果大阪(株)」IT・マーケティンググループの新開茂樹氏は「流通の最前線～市場と産地と人をつなぐ～」と題し、卸売市場の果たすべき新たな役割について報告。「市場を取り巻く環境が大きく変化してきている中で新たな市場価値を創造していくことが大切」と述べ、「これからは多くの情報を流通させ、産地と消費者のパイプ役として、また食や農に関するさまざまな組織との横のつながりのパイプ役としての役割が求められる」と主張。自身が



行っている産地と消費者を引き合わせての食育活動や食品メーカーとコラボさせるなどの新しい販売方法について紹介、ネットワークを生かした農業・農村の活性化の可能性に触れた。

第2部では、農業版MOT修了生2名が現在の活動を紹介。MOT第1期生で大規模露地野菜経営に取り組む「株Plant Farm Japan」代表取締役社長の成富正司氏は、「法人経営で見えてきた課題を見直しながら、将来的に農業を志す若者の受け皿になりたい」と力強く語り、経営の見える化を進めるとともに、会社の経営理念として「大地を耕し、人を耕す」を掲げ、「『野菜を作るから人を育てる農業へ』成長したい」と抱負を述べた。



さらに多久市の「障害者支援センターまや」施設長の船津静哉氏（MOT第5期生）は、廃校跡地を活用した農と福祉の連携による障害者自立支援の取組を報告、障がい者に寄り添った形での自立支援の重要性を主張した。

最後に韓国農水産大学校から国外現場指導教授の任命を受けている野村勝浩氏（MOT第2期生）は、農場で研修中の韓国農業青年が日本での現場研修や生活体験など悪戦苦闘しながら頑張っている様子を報告した。

農業版MOT教育も、平成26年11月の日韓農学系5学部の国際連携協定の締結などを契機に国内外にネットワークが拡大しつつある。

今後もMOT修了生の成長の歩みを追跡し、その成果を広く一般に公開し、農業版MOT教育の一層の進展に向けて取り組んでいきたいと考えている。

内海修一（S49年院卒・農経）





## 農学部研究室紹介

### その⑪

## 生物環境科学科 地域社会開発学講座

### 地域ビジネス開発学分野

教授：白武 義治

本研究室は、農業経済学、農業経営経済学、食糧生産経営学・流通情報経済学と変遷し、現在、地域ビジネス開発学の分野名となっている。

本分野では、農作物の生産・加工・流通・消費、持続的な農業、農村開発などの分野において、それを担う人とその組織を経営経済学的側面から研究し解明する。本分野は流通情報経済学と農業経営学に関わる教育と研究を行い、前者では流通市場構造を分析して産地の市場対応を検討するほか、生産財・農地・農業労働力・農業金融・農業情報など農業関連市場の実態と問題点について実証的研究を行う。後者では家族農業経営、農業法人、集落営農などを対象とし、その組織と管理に関する基礎及び応用研究を行う。調査地としては日本国内を中心に東南アジア・南アジアがある。現在のスタッフは、教授：白武義治（農産物市場学）、准教授：辻一成（農業経営学）であり、学生は大学院：博士課程2人、修士課程4人、研究生1人、4年6人、3年7人である。白武は農業関連市場・農産物市場に関する研究、農産物地域流通体系の合理性と地域食品製造業の意義に関する研究（キーワードは農産物市場、農業市場、地域食品加工業、地場・地域流通、農協共販）を行い、辻は市場経済移行下のベトナムにおける農業経営と農家経済の持続的発展に関する研究、担い手経営の組織と管理及び農業経営者の機能に関する研究（キーワードは農業の組織と管理、経営の持続的成長、経営者機能、ベトナム）を行っている。

本研究室は、佐賀大学で全国学会の日本協同組合学会（伊東勇夫先生初代会長1982年、30周年大会2010年）、日本流通学会（2004年）を開催した。また、アジア農業の研究に関する国際シンポジウムを2005年度より10年間連続して開催し、2012年の国際協同組合年には国際協同組合シンポジウムを開催した。豊富な研究情報を提供して学会活動と地域農業に寄与した。

今年のトピックは主に2つある。1つは、国際農業農村協同組合学会創立総会を滝澤副学長、渡邊農学部長の臨席の下、2015年11月13日（金）に開催し、当国際学会が創立され、本研究室に本部が設置されたことである。画期的で、極めて時宜を得た学会創立であったという評価を受けた。第1回理事会で、白武教授は副会長を拝命した。我国を始め中国、台湾、韓国の研究者を中心に本学会の運営に当たるが、会員が東南アジアやアフリカ諸国、ロシア、ドイツ、イギリスへと広がり急展開が予測される。当学会の狙いは各国の農業農村協同組合を巡る実証的研究が多く報告されることであり、その多岐にわたる情報が豊かな地域農業発展やその担い手育成にも寄与することである。2つは、本研究室の博士学位取得者11人のうちスリランカのサンパタ氏が2014年末に首都にある国立マンモス大学の学長に就任して当国の教育研究に寄与しており、10月にはアメリカ出張の岐路、本学長を表敬訪問し、佐賀大学との大学間協定を提案したことである。



## 職場では、佐賀県農業系高校の取組（その3）

### 高志館高校における6次産業化研究活動

#### 1. はじめに

高志館高等学校は、佐賀県立佐賀農芸学校として昭和9年に佐賀市赤松町に開校し、現在、82年目です。幾多の変遷を経て、園芸科学科、環境緑地科、食品流通科の3学科からなる農業単独の高校です。「為して学ぶ高志館」をスローガンにそれぞれの学科で農業を軸とした専門技術・知識を習得し、地域社会を担う人材づくりを目指しています。

私が所属する食品流通科は、農産物の加工及び流通経路、情報処理に関する知識と技術を中心とした学びを実践しています。2年次より食品製造コース、流通実践コースに分かれ、更に実践的な授業を展開しており、研究活動としては、地元大和町の特産品である金柑を用いた商品開発を始めとして、地域に貢献できる活動を実践しています。

#### 2. いちごを用いた商品開発への取組（生徒の研究活動）

##### ①研究の動機（規格外いちごの利用）

現在、食品流通科では新たな研究活動として規格外いちごを用いた商品開発を行っています。そのきっかけとなったのは、今年のクリスマスケーキ製造実習の際に、とても美味しい規格外のいちごを農家の方にゆずっていただいたことでした。その時に、「規格外のいちごは普段どうしているのだろう」という生徒の素朴な質問があり、いちご農家の方にお話をうかがいました。お話では、「毎日発生する規格外のいちごは知人に譲る他、廃棄することもある」とのことでした。6次産業化に向けて規格外いちごを用いた加工品の製造も検討されていましたが、いちごの生産に加え、加工や販売まで行うことは容易ではありません。6次産業化は、雇用・所得の確保、若者や子どもの集落への定住、新たな産業の創出など様々な面でその効果が注目され、推進のため加工施設導入に伴う資金面での支援、新商品開発に関する支援等も活発に行われていますが、すぐに取り組むことは難しいというのが現状のようでした。そこで、私たちは規格よりわずかに小粒であるいちごを通常より安価でゆずっていただき、そのいちごを用いて商品開発ができないかと検討することにしました。

##### ②研究の内容（パウンドケーキへの利用）

いちごの保存や添加については様々な方法を検討し、いちごの食感を楽しめるよう粒の形を残したプレザーブスタイルのジャムにして菓子に添加することにしました。初めて製造したパウンドケーキは、生地の上にのせていたいちごが焼成後には底に沈み、いちごの周囲に空洞ができてしまいました。そこで添加するいちごの大きさや処理方法に工夫をしてケーキ全体にいちごが広がるよう製造法を改良し、いちごの風味や食感を楽しめるケーキを完成させました。しかし、生地の食感等でまだまだ課題が残っているため、更に魅力的な商品となるよう今後も改良を続けたいと考えています。

##### ③研究の意義（試作品の評価と生徒の思い）

いちごパウンドケーキを更に改良するため、地元の道の駅でいちごパウンドケーキの試食会を開催しました。試食のお願いをしたところ、多くの方が足を止めてくださり丁寧にアンケートに回答してくださいました。試食をしていただく際には、この活動を始めるきっかけとなった佐賀の農業の現状や、ケーキに規格外いちごを利用していることもお伝えしました。試食していただいた方の意見を集約すると、ケーキの味や食感に対する感想の他、「農業を守るための活動であることが分かりました」という意見や「佐賀県が誇る農業が更に魅力的なものになるよう応援しています」などの意見もありました。これらの意見から、試食していただいた方にとって、この活動が佐賀の農業について考えるきっかけになったことが分かりました。





更に、研究のためにいちごをゆずってくださった農家の方からの「佐賀県の農業のために高校生たちが活動してくれていることが嬉しい」との声は、大変励みになりました。



生徒たちにとって焼菓子の商品化は初めての体験で、それまでは「消費者目線で製品を形にする」ということに意識が向いていましたが、試食会での意見や農家の方の意見により、この活動に新たな意義を見いだしたようです。「この活動を通して、佐賀県の農業について更に知ってもらいたい」等の意見も聞かれるようになり、更に意欲的に活動する姿勢が見られるようになりました。今後は規格外いちごを用いた商品開発だけでなく、農家の方の6次産業化に向けた支援として、農家の視点での加工品のレシピ開発にも活動を広げたいと考えています。

「佐賀の農業の発展に貢献したい」という大きな目標に向かうにはまだまだ活動の形を検討する必要

がありますが、今後も活動を継続・発展させていく中で佐賀県の農業を支援できる活動につなげたいと考えています。

### 3. 研究活動を通して

農家の方にお話をうかがい、「佐賀の農業のために」と始めたこの規格外いちごを用いた商品開発の取組。目的意識を持って活動を広げていこうとする生徒たちの姿は、日を重ねるごとに頼もしいものになっています。生徒達と共に活動し、地域・日本の農業を担う人材の育成に向けて指導を行う中で、私も農業教育の重要性や可能性を改めて実感しています。今後も佐賀県が誇る農業の発展に貢献できるよう、共に活動を広げていきたいと思えます。

吉田佳代（H25年卒・生命）



## 佐賀大学農学部人事異動（平成27年10月1日現在）

	学科及び講座名	新	氏名	旧	発令日
1	応用生物科学科生物資源開発学講座	准教授	辻田 有紀	(採用)	H26. 5. 1付け
2	応用生物科学科生物資源開発学講座	准教授	藤田 大輔	(採用)	H27. 4. 1付け
3	生物環境科学科資源循環生産学講座	教授	北垣 浩志	(准教授)	H27. 4. 1付け
4	生物環境科学科地域社会開発学講座	准教授	中井 信介	(採用)	H27. 8. 1付け
5	生命機能科学科生命化学講座	講師	辻田 忠志	(採用)	H27. 8. 1付け
6	生命機能科学科生命化学講座	教授	宗 伸明	(准教授)	H27.10. 1付け
7	生命機能科学科食糧科学講座	准教授	野間 誠司	(採用)	H27. 1. 1付け

## 支部だより

### 佐賀県庁支部

### 佐賀県庁支部総会

9月2日にグランデはがくれ(佐賀市天神2丁目)において、平成27年度佐賀大学農学部同窓会佐賀県庁支部総会を開催しました。

平成27年度は、山口慎二、八谷友紀子、菊池円海、弓削尚之、柿本望、池上紀子、副島沙也香、平田徹、江藤咲月、井手口朝美、玉城沙奈【敬称省略】の11名が新たに会員になりました。その結果、現在の会員数は223名となっています。

総会には会員41名の参加があり、佐賀大学農学部同窓会本部からは川副会長も駆けつけていただき、熱いエールを送っていただきました。

議事では、滞りなくすべての議案について、承認をいただきました。

役員の一部改選が行われ、支部長以下の役員については、次のとおりに選出されました。

支部長：田代暢哉（S54）、副支部長：高尾雅晴（S57）、船津哲也（S56）、幹事長：妹脊 浩（S59）、会計：谷口宏樹（H4）、幹事：明石真幸（H18）、岩城雄飛（H17）、池田英彰（H16）、高取由佳（H11）、荒木 勉（S62）、瀬戸和善（H2）、小松修士（H19）、監事：安西 隆（S55）、吉松修司（S58）【敬称省略】

〈（ ）は卒業年次、新役員をゴシック体で記載〉

今回、新しい企画として新入会員の皆様への一言アドバイスを先輩の瀬戸さん（H2）と木下さん（H8）からいただきました。これからの県庁生活を送

る上で、心に響くアドバイスを受けたものと思います。

総会後の懇親会では、まず、農学部同窓会から差し入れていただいた佐賀大学のお酒「悠々知酔」で乾杯しました。その後は、各自の近況報告や楽しみにしている「抽選会」がありました。皆さん、時間を忘れる程に先輩・同輩・後輩と和気あいあいと懇談を楽しむことができました。同窓会の魅力、ここにありです。

今回の総会では、参加目標を50名にしていたのですが、目標達成とはいきませんでした。来年こそは、目標に到達できるようにもっと工夫していきたいと考えています。

来年3月に開催される「先輩を送る会」には、多くの会員の皆様が参加していただけることを期待しています。

妹脊 浩（S59年卒・育種）



### 熊本県庁支部

### 熊本県庁支部総会

佐賀大学農学部同窓会熊本県庁支部の平成27年度総会及び懇親会を、平成27年8月7日(金)午後7時より「アークホテル熊本」で開催しました。

総会には会員21名のほか、佐賀大学農学部同窓会本部から白武理事、田中理事に駆けつけていただき、また、農業高校同窓会からも出席をいただき、総数27名の出席者数となりました。

総会では、小牧会長の挨拶のあと会計報告、役員





改選があり、新会長に永井典昭氏（S54年卒・育種）、副会長に塩貝執氏（S55年卒・作物）、監事に城秀信氏（S56年卒・土肥）、事務局に坂本豊房氏（H10年卒・細胞）が選出されました。

総会後は懇親会に移り、本年3月末に退職された高松氏の激励と出席会員の自己紹介を行い、大いに

会員相互の懇親を深めました。今年度は、新規採用職員がなく、現役会員数が減少する中で、次年度以降は在学生の皆さんには先輩に続いて行って欲しいと思っています。

永井典昭（S54年卒・育種）

## 農学科・園芸学科

諸般の事情により皆様方への報告が遅れてしまいましたが、1973年に農学科と園芸学科に入学した者で構成する「73A 農学科・園芸学科」同窓会を、2014年11月22日に佐賀ワシントンプラザホテルで開催しましたので報告します。

この会は、2006年の佐賀での開催を皮切りに、2年毎に福岡、熊本、長崎と北部九州各県の持ち回りで開催しており、今回が5回目の開催となりました。今回は、全員が還暦以上となることから、近隣にお住いの恩師の先生方をお招きして、記念の会として開催することにしました。

当日は、九州各県はもとより遠路は千葉県からと24名の同窓生が集い、また、高木胖先生、田代洋丞先生をはじめ9名の先生方の御臨席を仰ぎ、盛会のなか始まりました。

会是有馬進君の司会で進行し、堀賢太代表幹事のあいさつの後、小島孝之先生から祝辞を頂き、お話し三番のあと岡本悟先生の乾杯の音頭で宴に入りました。宴では、山口郁夫君がこの会を記念し学生時

## 「73A 農学科・園芸学科」2014同窓会

代の写真を編集して作成したDVDを鑑賞し、また、それぞれが近況報告を行い、外観は初老ながら気持ちは学生時代にプレイバックして楽しい時間を過ごしました。

最後は、高松孝行君の巻頭言に続けて全員で肩を組みながら「楠の葉の」を謳い上げ、2年後の福岡県での再会を誓いながら佐賀の街に散って行きました。

松尾孝則（S52年卒・植病）



「73A 農学科・園芸学科」2014同窓会  
2014年11月22日 佐賀市 佐賀ワシントンプラザホテル

## 編集後記

我が農学部の在校生も女性が5割以上を占めておりますが、昨年8月28日、職場での女性の活躍を推進するため「女性活躍推進法」が成立しました。このような状況の中で、今回は農学部を卒業し、社会で活躍する女性にスポットをあててみました。キリンビール株式会社神戸工場長の神崎夕紀さんです。

神崎夕紀さんは、佐賀大学大学院農学研究科農芸化学専攻修了。平成4年キリンビール。福岡、神戸などの工場で品質保証、醸造を担当。キリンR&D本部酒類技術研究所副所長を経て現職。福

岡県出身。52歳。平成27年4月23日付の産経新聞で「変わろうとする会社の意志を感じる。25年の国内飲料事業の組織改革を機に等級の高い職務への若手の積極登用が打ち出された。多様性のある人材登用も進めており、私が工場長に選ばれたことも会社のメッセージととらえている」と就任の抱負を述べておられます。

農学部を卒業した女性の社会でのますますの活躍を期待したいと思います。併せて、同窓会活動への参加と支援をよろしくお願いいたします。

編集担当：大久保 惇（S47年卒・土肥）

## 協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、皆様より協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げますとともに、協賛各社の今後のご発展をお祈り申し上げます。



企業理念 常在 お客様貢献

## 松尾建設株式会社

認証取得

ISO9001  
ISO14001

代表取締役社長 松尾 哲吾

松尾建設楠葉会(佐賀大学卒)一同

本店 〒840-8666 佐賀市八幡小路1番10号 TEL(0952)24-1181  
本社 〒810-8506 福岡市中央区薬院三丁目4番9号 TEL(092)525-0111  
東京本社 〒166-0003 杉並区高円寺南二丁目16番13号 TEL(03)5378-2271  
支店 仙台・東京・名古屋・大阪・広島・山口・北九州・福岡・佐賀・長崎  
熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄  
URL <http://www.matsuo.gr.jp>





*Grain & Pet Care Communication*

# 株式会社 森光商店

取締役社長 森光栄一

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7  
PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>

これからも皆さまと共に



ホテルニューオータニ佐賀開業40周年企画

佐賀県味めぐり  
“がばいうまが”フェア  
Vol.2



四季折々の、地域ごとに異なる表情を  
持つ県内各地の様々な食材を  
味わえるレストランフェア。  
第二弾は鹿島&小城がテーマです。



*The New Otani*

ホテル ニューオータニ佐賀

〒840-0047 佐賀市与賀町1番2号  
TEL0952-23-1111(代)  
[www.newotani-saga.co.jp](http://www.newotani-saga.co.jp)

読者の皆様こんにちは。同窓会報に初登場の(株)ヨシモトと(有)佐嘉の絲です。

株式会社 ヨシモトは、「匠の店 佐賀工房」として、えきマチ（JR佐賀駅構内）店、有明佐賀空港店、イオン大和店、コープさが新栄店の4店舗を展開している小売業です。菓子類、民芸・工芸品、陶磁器、畜産物、海産物など佐賀の逸品を取り揃えて皆様のお越しをお待ち申し上げております。ぜひ、お立ち寄りください。



「匠の店 佐賀工房」えきマチ店

《商標》 彩健食



有限会社 佐嘉の絲

次は、有限会社 佐嘉の絲ですが、佐賀海苔を練り込んだ海苔うどん・そうめん・パスタに加え、成人病予防に効果があるといわれている栄養成分「ルチン」を多く含むアスパラガスを練り込んだアスパラ平麺（何れも乾麺）を販売しております。これらの商品は安心・安全・美味・健康をコンセプトに作り上げた世界でも類を見ないオンリーワン商品として、また料理にも幅広く利用できることから人気を博しております。佐賀県内の道の駅、農産物直売所、匠の店佐賀工房の4店舗等で販売しておりますので、お買い求め戴き、その美味しさを味わってみてください。

# 設計から生産・販売まで 自社一貫体制

樹木粉碎機  
豊富な  
ラインナップ



**ohashi**  
ECOLOGICAL TECHNOLOGY

株式会社大橋 842-0065 佐賀県神埼市千代田町崎村 401  
TEL:0952-44-3135 URL:<http://www.ohashi-inc.com>